

「乳がん検診について」

乳がんは女性のがんの中で最も多い疾患です。最近、乳がんになる女性が増加しており、10人に1人の割合に近づきつつあります。乳がんは女性のがん罹患率（病気になる確率）としては1位ですが、死亡率は5位と、罹患率は上昇していますが、死亡率の上昇は緩やかとなっています。ステージIであれば5年生存率90%以上と、早期発見することで根治が期待でき、検診が有効な疾患のひとつです。今回は乳がん検診についてのお話です。

乳がんの早期発見に有効とされているのがマンモグラフィです。対策型検診は死亡率低下を目的とした検診で、市町村検診などのことですが、この対策型検診ではマンモグラフィを40歳以上に2年に一度の頻度で推奨しています。対策型検診は、有効性や放射線被曝の問題、費用などを総合的に検討された検診です。人間ドックなどの任意型検診ではご自身で希望する検査を自ら選択して行う検診であり、1年に1度マンモグラフィを行うことや、エコーなども行うこともできます。基本的にはご自身の希望で検査を行うことができますが、その分、その検査が有効かどうか自ら判断・選択することが必要となります。ご自身で判断が難しい方は対策型検診に準じた検査をお勧めします。

マンモグラフィは圧迫板で乳房をはさむので痛みを強く感じてしまう方、高濃度乳腺といって乳腺が厚いためにマンモグラフィでは診断が難しい方もおられます。高濃度乳腺は若い方に多い傾向があり、マンモグラフィ検診が40歳から開始される理由の一つです。さらに日本人は高齢になっても高濃度乳腺の割合が多いとされています。

そこでエコーの有効性について調査が行われています。調査の途中結果では、エコーを併用することで、早期発見率の上昇はあるものの、死亡率低下効果はないことが報告されています。乳がん検診の目的は乳がんで亡くなる方を減らすことです。死亡率低下効果がないとすると現段階では有効とは言えません。しかし、エコーは放射線被曝もなく、検査の痛みもなく、高濃度乳腺の方にも適した検査でありますので、オプションとして検討するのもひとつです。

今年度の桐生市の乳がん検診が始まっています、新型コロナウイルス感染流行もあり、受診率低下が目立っています。今年は乳がん検診に行ってみませんか？

【乳腺外科診療部長 森下 亜希子】

